

くらしナビ 子ども Kids

kurashi@mbx.mainichi.co.jp



⑤学園の行事で和太鼓の演奏に打ち込む子どもたち。映画でも和太鼓を通じた地域の大人との交流が描かれている＝みちのくみどり学園提供 ⑥映画の一場面。子どもたちは、それぞれ思いを込めてこけしを作る＝映画「葦牙」制作委員会提供



養護施設の子ら見つめる映画「葦牙」

虐待からの再生描く

虐待などが原因で親から離れ、施設で暮らす子どもたちを描いた記録映画「葦牙(あしが)」の上映が広がっている。当事者の子どもや母親も登場し、虐待の表裏をとらえた作品だ。今月は児童虐待防止推進月間。オレンジリボンで相談先などをPRするキャンペーンも行われている。

【大和田香織】

普段の生活撮影 ■ 手差し伸べる必要訴え

映画の舞台は、盛岡市の児童養護施設「みちのくみどり学園」。1957年に虚弱児施設として開設し、98年から児童養護施設になった。75人の子どもが生活しているが、そのうち約7割が何らかの虐待を受けた子どもという。小池征人監督(64)らは昨

年、約4カ月にわたって学園に泊まり込んで撮影した。山小屋での合宿や、和太鼓の製作と演奏を教える地域の男性との交流などが豊かな自然を背景に描かれる。つかみ合いのけんかをしたり、スタッフのカメラにスリッパを投げつける子の姿も。人との接し方

が語るほうがいいと考え、当

オレンジリボン運動



栃木県小山市で04年、当時4歳と3歳の兄弟が川に投げられて死亡した事件をきっかけに市内の団体が始めた。06年から児童虐待防止全国ネットワークを窓口にして展開している。窓口一覧は公式サイト(<http://www.orangeribbon.jp/window/win.html>)。地域の児童相談所については全国共通ダイヤルは0570・064・0000。

が分からず、気持ちをうまく伝えられない子どもが多い。虐待した母親のサポートにもカメラが入り込む。自らも十分な養育を受けずに育ち、一人で6人の子どもを抱える母親の部屋の映像から生活の困難さが伝わってくる。別の母親は児童相談所へ度々通報され、こもりがちになった。「だれが通報したのかと考える

事者たちに撮影への許可を求めたという。藤沢園長は「大人たちが、どんな子にも気軽に声をかけてやる社会に変わってほしい」と願っている。映画のクライマックスは学園の弁論大会。中学生たちが自分の内面を見つめ、言葉で表現する難しい作業を職員に寄り添われながら準備し、晴れの舞台を迎える。

小池監督は撮影するうちに子どもたちの強さに気づいたという。「伴走する大人がいれば、どんな状況も乗り越えられる。社会の一員として子どもはもっと重んじられるべきだ」と話している。

■上映中・上映予定(一部)

▽東京都中野区/ポレポレ東中野 11月21日～ ☎03・3371・0088▽横浜市/シネマジャック&ベティ 20日まで ☎045・243・9800▽川崎市/川崎市アートセンター 27日まで ☎044・955・0107▽岩手県宮古市/みやこシネマライン 11月14～20日 ☎0193・64・5588  
※問い合わせは制作委員会 ☎0197・67・0714

厚生労働省によると昨年度、児童相談所が対応した児童虐待の相談件数は4万2664件(速報値)に上る。07年度調査では、全国564の児童養護施設に3万846人の子どもが暮らしている。